

# 江川耕地の再生をめざして

県北西部には珍しい大規模な谷津田空間を残す江川地区は、貴重な動植物も多く息づいています。同地区は、つくばエクスプレスの「柏たなか駅」から近距離にあることから、かつては大手開発事業者による住宅地整備が計画されていましたが、事業から撤退したことで、他の事業者へ売却されて無秩序な埋め立てが行われ、良好な自然環境が破壊されることを防ぐため、市では、自然保護団体等と共同で「自然環境保護対策基本計画」を策定しました。しかし、貴重な動植物を保護するためには、さらなる保全エリアの拡大が必要であったことから、区画整理事業は断念することとし、開発事業者の仮登記地を市が設立する農業生産法人が買い取り、里山の風景を保全し、貴重な動植物の生育環境に適するよう自然保護を優先した農業経営を行うよう計画を修正、江川地区の約90ヘクタールをビオトープ（生物生息空間）として再生することとしました。



## ■貴重な動植物が生息

江川地区は、市の最南部、利根運河に隣接したところに位置し、県北西部には珍しい大規模な谷津田空間を残しています。

農地や周辺の斜面林を含めた同地区には、貴重な動植物が息づき、「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」で「国内希少野生動植物種」に指定されているオオタカなどの猛禽類を始め、環境省や千葉県のレッドデータ

（絶滅の恐れがある野生生物を記載したデータブック）に該当する動植物も数多く生息していることが確認されています。

## ■開発から保全へ

歴史的には、かつて三ヶ尾沼といわれていたところが、利根運河の開削により掘り出された土によって埋め立てられて、昭和20年代後半に水田として整備されました。

しかし、農業の担い手が徐々に減り、同55年ごろから休耕田が目